大人が勝手に作ったもの

　国と国との間には、国境と名付けられた「線」が引かれており、その線で２つの国を分断しています。この線は、政治を行う大人が、政治的な都合で過去に引いたものです。その、大人が勝手に作った線は、それぞれの国で暮らす高校生や市民の関係も分断してしまうものなのでしょうか？
　この２年間、私が出会ってきた景文高級中学の生徒は、明るくて好奇心いっぱいで、フレンドリーな人もいれば、ちょっとシャイな人もいる――北陽生とまったく同じ、高校生。また、昨年の見学旅行で、私が出会った台湾市民の皆さんも、私たちと同じように、日々を楽しみながら、幸せに生きようとする――私たちとまったく同じ市民でした。

　若者と若者、市民と市民の間には、両者を分断する「線」とやらは、どこにも見当たりませんでした。

異文化に触れることで、世界が身近なものとなるので、世界に対する興味が湧いてきます。
異文化に触れることは、いつもより勇気が必要なので、積極性が養われます。
異文化に触れると、日常の当たり前が通用しないこともあるので、価値観が変わります。
そして、異文化に触れることをとおして、海外と日本を比較できるので、自分たちの社会の良いところや課題を再認識できます。

英語がうまく話せなくてもいいよ。そんなこと気にせず、台湾の高校生や市民の皆さんと楽しく交流してみよう。それで十分。贅沢言えば、ほんの少しでも自分の価値観が動けば大満足！５日間の、ありとあらゆる経験が、良質な経験となることでしょう。

さあ、みんなで、大人が勝手に作った「線」を吹き飛ばして、異文化を楽しもう！